

正しい搾乳手順

搾乳作業は酪農にとって収穫作業であり、乳質や乳房炎の予防に非常に大きな影響を与えます。日々搾乳されている酪農家の皆様方にとっては、当たり前のことばかりだとは思いますが、普段の作業手順について振り返って頂く機会になればと思います。

正しい搾乳手順とは

搾乳はミルカーによる陰圧と牛の射乳反射による乳房内圧の上昇によって行われます。射乳反射は乳頭の刺激が脳に伝わり、オキシトシンの放出されることによって乳腺胞の中の生乳が押し出される反射で、この乳腺胞の乳量は全体の約60%を占めます。

つまり、牛の泌乳生理にそって搾乳を行うことが、乳房炎を予防し、残乳を少なくする搾乳方法と言えます。

搾乳の前に

一連の作業を一人で行う方が、乳房炎の見落としや、ユニット装着・離脱の遅れなどを少なくできます。また、人の手にはたくさん常在菌がありますので、ラテックスグローブ等を利用しましょう。

①搾乳ワゴン、ユニットの準備

まず、搾乳ワゴンを準備します。搾乳作業は手際よく、衛生的に行うことが重要です。ストリップカップ、消毒液に浸したタオル、ふき取り用のペーパータオル、ディップパー、P.L.テスターなどを搾乳ワゴンに準備します。ユニットと共に搾乳する牛のそばに運んでから搾乳作業を始めてください。

②前搾り

前搾りは乳頭を刺激し射乳を促すこと、異常乳を発見すること、そして細菌数の高い乳汁を捨てることを目的として行います。それぞれの乳頭を5回ずつ、乳頭の根元を人差し指と親指でしっかり把握して搾りまします。刺激が不十分だと、オキシトシンの分泌が不十分となり、射乳不良による過搾乳の原因になります。

また、前搾りにはストリップカップを使います。これはブツを発見しやすくすること、乳房炎の乳で牛床を汚染しないためです。



やすすくすること、乳房炎の乳で牛床を汚染しないためです。

③乳頭の清拭

乳頭の清拭は乳頭表面の汚れをふき取り、細菌数を減らすために行います。1頭1枚の消毒液に浸したタ

オルを使って、乳頭のみをふき取ります。一度拭いた面は使わないようにタオルの向きを変えながら行います。乳房の汚れは、気になる場合は搾乳終了後に行いましょう。

④乾燥

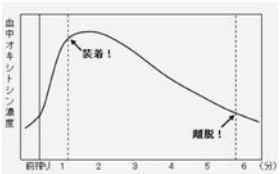
乳頭が濡れているとライナーズリップや、乳房の細菌が乳頭口から侵入する原因になります。乾いたペーパータオルを使って、乳頭に残った消毒液をふき取りしっかり乾燥させます。

⑤ライナーの装着

ライナーを装着します。前搾りを行うことで直ちに脳からオキシトシンが分泌され、乳腺組織に到達すると射乳が始まります。そのピークはグラフのように搾乳刺激から1分から1分半後ですので、この時間に合わせて装着します。装着するとき

はショートミルクチューブをZ字に曲げて、真空を遮断しながら行います。

また、ミルクチューブが振れないように注意します。



⑥ライナーの離脱

搾乳開始から約5分でオキシトシンの濃度はもとに低下するため、これを超えて搾乳を続けると、過搾乳になる恐れがあります。ブリード

ホールからの空気流入音が止んだとき、クローの中を乳が筋状に流れたときに真空を解除し、ユニットが自然に落ちるのに合わせて離脱します。乳房炎ではない牛乳を残乳させても、乳房炎の原因にはなりません。それよりもライナーズリップや過搾乳のほうが、乳頭にダメージを与えますので、まだ出ている分房があっても、四本同時に離脱します。マシンストリップピングもやってはいけません。

⑦ディッピング

搾乳直後の乳頭口は開き、ケラチン層も損傷されています。搾乳後直ちにディッピングを行い、細菌の乳頭への定着・侵入を予防します。乳頭の先端から、乳頭の三分の二まで満遍なくディッピング液が付着するようにします。ディップパーはノンリタータイプの方が、スプレータイプより満遍なく液をかけることができます。また、搾



乳後に給餌などを行い、牛がすぐに寝てしまわないようにします。

とも乳房炎の予防に効果的です。

(姉別診療課 山田 倫明)